

ASEAN 経済共同体 (AEC) 発足における ASEAN 日本人商工会議所連合会 (FJCCIA) の役割 (マレーシア / ASEAN 全域)

「ASEAN 日本人商工会議所連合会 (FJCCIA) の提言は、ビジネスの実態に即した優れた提案であり、ASEAN 経済共同体 (AEC) ブループリントの前進に役立っている。世界経済の減速にも係わらず、日本から ASEAN への直接投資や相互貿易額は高く、投資が続くことを期待している。今後も ASEAN は、FJCCIA や各国の日本人商工会議所との協力関係を重視したい」ASEAN 事務局のミン事務総長は、さる 8 月 21 日にマレーシアで開催された FJCCIA との対話でこう語った。



開会式で基調講演を行うミン事務総長

ASEAN 市民たる在 ASEAN の日系企業による組織として 2008 年 9 月に発足した FJCCIA は、ASEAN 各国の日本人商工会議所や商工会等 (トータルの会員数は 2015 年 8 月現在で約 6,500 社) によって構成されている。その活動の一つに ASEAN 事務総長との対話が挙げられる。これまで AEC 実現に向けて日系産業界の関与を高めるべく、ASEAN 全体や複数の国に共通する要望を FJCCIA にてまとめあげ、AEC ブループリントの構成に添って要望を続けてきた。

その継続的な活動が功を奏し、今日では FJCCIA 対話の活動・成果が日 ASEAN 経済大臣会合へ報告され、首脳級会合でも毎年確認されるに至っている。

その結果、ステータスの向上によって注目度が高まり、具体的な成果も出ている。例えば ASEAN 域内の FTA 原産地証明書への FOB 価格の不記載要望により、企業ニーズに即した運用に改善されたほか、原産地証明書発給に係る自己証明制度の導入要望により、発給に係

る手続きの簡素化や時間短縮を図ることができた。また、ASEAN 各国が貿易・通関手続きの電子化と窓口の一元化を行い、域内の標準化と情報の共有を図る「ASEAN シングルウィンドウ (ASW)」のパイロットプロジェクトの実施などが実現した。

一方、これまで AEC は「単一市場・生産基地」の実現を目指してきたが、その工程は道半ばであり、本年の発足は実現に向けたマイルストーンとの位置づけである。現に非関税障壁・措置の改善や、サービスや投資、熟練労働者や資本の自由な移動など、物品貿易以外の分野では具体的な進展がなされていない。

そこで、本年の FJCCIA とミン事務総長との対話では、ビジョンの実現に向けてビジネス環境改善効果が高いと考えられる「基準・認証、非関税障壁、サービス自由化」などの課題解決の促進を要望するとともに、AEC 発足後の 10 年先を見据え、「人材育成や中小企業支援施策」などを新たに提言した。

8 月 23 日には、日 ASEAN 経済大臣会合がマレーシア・クアラルンプールで開催される機を捉え、その会合内でも FJCCIA はその一部を意見具申し、複数国の経済大臣から提言に対する歓迎の意向が示された。

AEC 発足後、現地日系企業のサプライチェーンの構築や貿易・投資の強化の観点から、国境を越えた課題解決の機能はより重要になる。日系企業の総意を伝える役割として、FJCCIA と ASEAN 事務総長との対話に今後も注目いただきたい。



ASEAN の日系企業代表として要望書を渡す岡本敏郎
マレーシア日本人商工会議所会頭 (右) とミン事務総長 (左)

(マレーシア日本人商工会議所 事務局長 久野 幹太)